

令和5年度 江戸川区立西小岩小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	考える子 やさしい子 健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・どの子供も「学校が楽しい」と感じ、安心して学べる学校 ・主体的・対話的に学び、自分を尊重し合い、互いを大切にできる心豊かな子 ・温かさの中に厳しさも加味し、意欲と自覚・自律を促す、人間味あふれる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果>『協力的に学び、確かな読みの力を身に付ける子 ～すべての子が「わかった」「できた」と実感できる授業を通して～』を研究主題として、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科における指導の推進を実践できた。コロナ禍における対応の中でも、落ち着いた学級・学校経営を図ることができた。</p> <p><課題>学力の向上(全国学力調査等含む)、教員一人一人の授業力向上、保護者の理解を十分得た特別支援教育の推進。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	評価	コメント		
学力的向上	<学力の向上> ・「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」の作成および実施、その効果検証、教員の授業力向上 ・補習の実施などによる指導の充実、学習習慣の確立 ・各教科等の連携教育プログラムによる連携の充実 ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對する学校の組織的対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習(ステップアップタイム)の計画的推進 ・東京ベータック・ドリルの繰り返し実施と診断テスト ・マインロードのドリルパークなどで下学年の課題や、できそな課題に取り組みせる。 ・外部委託業者による、算数に特化した放課後補習(2年生以上)週1回実施 ・授業観察・・・年3回以上、研究授業(国語科)・・・年1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・話型「話し方・聞き方名人」を掲示し言語環境を整える。 ・「算数が分かるようになった」の回答80%以上 ・東京・ベータックドリル年3回実施、7割通過率、全年70%以上 ・「江戸川っ子study week！」でのドリルパーク実施率 70%以上 ・児童アンケート「授業はわかりましたか」の肯定的回答70%以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の概要を読み取れるようにするための手立てを工夫してほしい。 ・外部講師が補習をすることで、子供たちの理解力が高まることは、自信にもつながるし、区の施策としてよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現学年以前の学習内容の理解が十分ではない児童の底上げに努める。 ・朝学習(ステップアップタイム)について、基礎的な学習の成果が得られるようポイントで学習させるなどの工夫をしていく。 	
	<読書を通じた探究的な学習の充実 (読書ノート等の活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめて表現する方法の指導、朝読書と単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等)>	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む学習コンクール」に向けた探究的な学習の取組 ・読書タイムの活用と、読書月間の設定・・・10月、2月 ・高学年を中心に読書学習コンクールへの全員参加 ・全校読書ノートを活用した授業の実施・・・2回以上 ・読書通帳の活用と読み聞かせ(図書委員会。図書ボランティア等)の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通じた探究的な学習の取組で、全年が江戸川区属の学習コンクールに応募 ・高学年を中心に読書コンクールに全員参加 ・児童アンケート「本を読んだ分らないことを調べたりするのが好きで、資料の活用が面白い」との回答80%以上 ・読書パックに本・国語辞典をいれるなどして、いつでも手に取れるようにする。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全児童が調べる学習コンクールに応募し、3名受賞して欲しい。 ・今後は、地域・保護者に対して、「読み聞かせボランティア」の募集や「子供に読ませたい本」の募集を行ってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書や読書授業の内容を工夫する。学力向上委員会と協力し、全校で取り組む。 ・月に2回来校する図書館員を活用し、さらなる図書室整備と読書科の計画の改善を図る。 	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・健康な生活を送ろうとする児童の育成 ・人工芝を活かした取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「イングリッシュ・デイ」年3回実施 ・「イングリッシュ・ウィーク」年1回以上実施 ・道徳授業の模範授業年3回以上実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・「イングリッシュ・デイ」年3回実施 ・「イングリッシュ・ウィーク」年1回以上実施 ・道徳授業の模範授業年3回以上実施 ・児童アンケートで、「体育の授業で頑張った」「外遊びを新しい」肯定的回答90%以上、実施率80% ・全校による「新体力テスト」の適切な実施(6月) ・誰でもできる運動遊びの紹介 ・運動委員会による「運動遊び」の紹介年1回以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「イングリッシュ・デイ」などの取組を今後取り入れていく。 ・「イングリッシュ・ウィーク」などの取組を今後取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で頑張った、外遊びを新しい児童82%と、まだ目標を達成できなかった。体育の授業力をもっと上げるなど、取組の改善が必要である。 ・新体力テストのポートが平均2ポイント下回った。ポイントを絞って取り組めるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で身体を動かす機会が少なかったこともあって、体力は落ちていると感じる。身体を動かす機会を、活動の中でたくさん設けてほしい。 ・新体力テストの内容の周知を図る。「持力力」「投力」などの取り組み(工夫) ・元気アップタイム、休み時間の遊び等に縄跳びチャレンジweekを設定するなど、実施内容について改善していく。 ・人工芝の校庭を生かした取り組みをさらに検討していく。
	<健康教育の推進> ・「よい歯の取組」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいや歯科検診後の治療など、歯科衛生に関する取組の実施 ・校内歯科衛生週間の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科治療完了率前年度比・・・5ポイント以上 ・校内歯科衛生週間・・・年1回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・うがいや歯の検診は毎日実施すること、歯科の治療完了率は前年度比ではほぼ同等であった。さらに上がってくるよう、児童・保護者への呼びかけを引き続き行っていく。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・歯は一生のものなので、健康維持には意識をほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「歯ごっこ週間」を学期1回設定し、歯科衛生の習慣づけを呼び掛ける。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンパワールームの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンパワールームの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の充実 ・SDGs17の取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点を授業にしている教員100%(教員アンケート) ・ケース会議、支援会議の充実 月1回以上 ・副障交流、交流及び共同学習の実施 年1回以上実施 ・SDGsの取組実施率100% 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザインの視点で授業を展開している教員が100%と、今年度も目標を達成した。 ・特別支援教育の研修は、年1回以上実施できた。今後も校内体制としてきちんと位置付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議を月に1回以上実施し、情報共有を確実に実行できるようにする。 ・個別の面談を設け、学校での様子を適宜知らせたりするなどして、保護者への理解を十分得られるようにする。 	
	<チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用> ・外部機関との連携 ・SSWやSCを活用した取組	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師と連携を図り児童理解を深め活かに活かす。 ・体罰、児童虐待未然防止に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による校内研修・学校との交流 年1回以上 ・地域との懇談会に年1回以上参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による校内研修・学校との交流 年1回以上 ・地域との懇談会に年1回以上参加 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家チームは2回、特別支援専門家1回(書面)の来校や、実施機会を設け、校内で研修した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・民生児童委員との連携を、今後考えていきたい。 ・SSWについては、その役割を明確にできるとよい。
子供たちの健全育成	<不登校の健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyppaer-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導連絡会・・・毎週水曜日 ・身近な事例から考える、道徳授業の充実 ・道徳授業地区公開講座(10月)の実施 ・hyppaer-QUによる学年・クラスの実態調査 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで「学校が楽しい」回答90%以上 ・道徳授業公開講座・・・年1回以上 ・hyppaer-QUの実施・・・年1回以上、研修会1回以上 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校が楽しい」の回答80%であった。児童が安心して学べる学校づくりに努め、心の教育を推進していく。 ・道徳授業地区公開講座、年1回実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育アンケートの内容を項目ごとに精査して、保護者の意見を吸い上げやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・児童支援部で、児童が安心して過ごせる環境づくりをすすめていく。 ・hyppaer-QUの研修会を年1回以上実施し、教員の理解を深める。
	<いじめの未然防止に向けた取組の充実> ・軽微ないじめも見逃さない取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをなくしていく環境づくりと、未然防止・早期発見、早期対応で組織的に解決 ・『あのねBOX』の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ総合対策【第2次一部改訂】 年3回以上 ・心のアンケート 年3回 ・いじめ防止研修 年2回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見、早期対応に努め、聞き取りカードなどを共有化するなど組織的に取り組んでいく。 ・あのねBOXを活用できた。さらに気軽に相談できる環境づくりを行っていき。 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での生活習慣等については、各々考え方が違っていると感じる。相談にのるなどして、早期に解決ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・このアンケート、いじめをテーマにした授業は年3回実施している。道徳科の授業などを通じて、学校全体での「心の育成」に取り組む。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実等 ・学校公開の実施・充実 ・保護者連絡アプリ「tetoru」による様々な案内の発信等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの内容を検討し、校内の出来事を発信する。 ・学校公開・学校説明会の周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や出来事など、ホームページで毎日更新 ・年6回の学校公開等、2週間前までに周知 ・クラス単位での学校通知発信(適宜) 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・行事や出来事など、ホームページで随時更新した。 ・年6回の学校公開等、2週間前までに周知し、保護者へ呼びかけた。 ・不安を感じる保護者へ日々の授業の様子を見せられるよう、声掛けした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的に学校全体を見ていけるようにして欲しい。 ・年6回の学校公開等、2週間前までに周知し、保護者へ呼びかけた。 ・安全にかかわることについては、保護者の理解を得ながら、今後も緊急に対応するなどしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ホームページの内容をさらに検討し、校内の出来事を週に2回以上発信する。 ・学校公開・学校説明会については「tetoru」を活用して、今後周知していく。
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校評価の充実 ・学校関係者評価の実施および工夫改善 ・教員の評価基準についての共有化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に基づいた指標とそれに対するの成果の分析実施 ・経営支援部の更なる充実・・・月1回 ・職層に応じた人材育成の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる学校評価の実施 年2回 ・学校関係者評価の周知および実施 年2回以上 ・経営支援部の更なる充実 月1回 ・校内QJT 年10回以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンラインによる学校評価は7月と12月の年2回実施できた。 ・保護者への学校関係者評価の周知は、6割程度であった。 ・経営支援部は月1回実施し、急を要する案件について、迅速に対応できた。 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルで、年度内でも改善できることは評価に欲しい。 ・PTAとの関わりを、さらに厚くしていくとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価についてきちんと分析し、次年度に確実に活かせるようにする。 ・様々な行事や、学年のイベントなどをうまく活用し、教員と保護者との信頼関係を確立していく。
特色ある教育の展開	<小中連携教育の推進> ・「小中連携教育構想」および「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校区内で作成した「NorthWest&Fourth」を基にした行事のすり合わせ ・小中連携行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の中学校体験の実施 年1回以上 ・行事交流 年1回以上 	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の取組実施は70%であった。更なる意識づけを行っていく。 ・「基礎的な読み書きができる」の回答は、80%であった。すすんで実施できるように声掛けしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶をすすんでできる、これからも声掛けを行ってもらいたい。 ・地域でも積極的に挨拶ができるような環境づくりを行ってほしい。 ・「おかしな質問」等を設けるなど、すすんで挨拶のできる児童を育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習に向けて、目標を立て、それらを達成できるように、年度計画に盛り込んでいく。 ・「おかしな質問」等を設けるなど、すすんで挨拶のできる児童を育成していく。
	<全校俳句の取組> ・四季折々の季節感を言葉で表現できる児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句作り(全校)を取り組み、感性を磨く。 ・校内俳句コーナーに掲示 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートで俳句作りが楽しい、季節を感じるようになった回答80%以上 ・校内俳句表彰 年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校のおよそ81%の児童が、季節などの俳句づくりに取り組んでいる。 	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句は子供たちの心を伸ばせる活動だと思う。季節も感じられるので、今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・俳句の取組は年間3回実施。各回ごとに表彰するなど、児童の意欲につながるよう工夫していく。
特色ある教育の展開	<教科担任制による専門教科の授業> ・高学年の教科担任制導入による中学校へのスムーズな学習スタイルの移行 ・1年生の専任教員専任制による授業の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年を主とした教科担任制授業の効果・検証実施 ・低学年の少人数指導の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制についての効果検証アンケート 肯定的評価70%以上 	B	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年関係について、複数の教員で長年学びの学習がすすめるのでもよい。 ・時間配りも工夫が大きい。特にクラスの都合) 	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高学年へのスムーズな移行を確実と、良い施策であると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科担任制についての児童のアンケートを毎年で分析し、成果と課題を明確化していく。